

# スポーツトレーナーによる実践的現場教育における その効果について

— NITT 学生部の挑戦 —

西村 優一 大隅 祐輝 渡邊 靖弘

日本医学柔整鍼灸専門学校

## The NITT Students' Department Initiative: Its Benefits for Practical Field Training by Sports Trainers

Nishimura Masakazu Osumi Yuuki Watanabe Yasuhiro

Nihon Igaku Juseishinkyu College

**Abstract :** 【Background】 In recent years, there has been an increase in the number of students who enter an institution wanting to become a sports trainer and with the aim of acquiring a qualification. However, many schools have not been able to provide education that can meet their needs. We established the Students' Department of the Nippon Medical Trainers' Team (NITT) , in an endeavor to implement the qualification acquisition and improvement in student motivation in regard to lessons that practical on-site education brings about.

【Purpose】 Improving student motivation through hands-on field education.

【Method】 We invited students who are interested in sports trainer activities and established the NITT Students' Department. We dispatched students to the sites of NITT-affiliated organization as interns. Also, we created and implemented a program by an external top trainer. Further, we conducted a questionnaire using the same five-step scale before and after the activity and compared them.

【Results】 Of the four items in the questionnaire, there was no change in the qualification acquisition. Evaluation of the other three items (classroom study, practical skill lessons, and learning time) all increased.

【Conclusion】 Practical on-site education improved the students' motivation in regard to ordinary lessons.

**Key Words :** Sports trainer, practical field training, motivation improvement, Nihon Isen Trainers Team (NITT)

**要旨 :** 【背景】 近年、スポーツトレーナー活動に憧れ、資格取得を目指し入学してくる学生が増加している。しかし、多くの学校でそのニーズに答えられる教育は提供できていない。今回、日本医専トレーナーズチーム(NITT) 学生部を立ち上げ、実践的現場教育がもたらす資格取得や授業に対するモチベーション向上のための取り組みを行った。

【目的】 実践的な現場教育による学生のモチベーション向上

【方法】 スポーツトレーナー活動に興味を持つ在校生を募集し NITT 学生部を立ち上げる。NITT 提携組織の現場に実習生として派遣。また、外部のトップトレーナーによるプログラムを作成し実施。活動前後で同様の 5 段階尺度を利用したアンケートを実施し、その比較を行う。

【結果】 アンケート 4 項目のうち、資格取得に対しては変化なし。その他 3 項目(座学・実技授業・学習時間)に関しては上昇した。

【結論】 実践的現場教育は、通常の授業に対するモチベーションを向上させた。

**キーワード :** スポーツトレーナー、実践的現場教育、モチベーション向上、日本医専トレーナーズチーム (NITT)

## 1. はじめに

近年、柔道整復師や鍼灸師がスポーツ現場で活動する機会が増加しており、またその活動に憧れ、資格取得を目指し入学してくる学生もまた増加している。しかし、実際の教育現場では、資格取得が教育の根幹であるため、多くの学校でそのニーズを満たすだけの教育体制を整えることはできておらず、資格取得対策のための講座が多く、臨床現場にそくした実践的な現場教育の機会が減少している。そのため、入学当初に持っているその職業に就くことへの意欲を低下させることに繋がっている。

当校では、2015年より教育機関としては全国でも非常に稀である「日本医専トレーナーズチーム(NITT)」(以下NITTと略す)という卒業生を中心としたプロスポーツトレーナーの派遣組織を運営しており、高校・大学・社会人・独立リーグ・プロと計11組織と提携し、多くの現場でメディカルサポートを中心としたトレーナー活動を行っている。今回、スポーツトレーナー活動に興味を持つ在校生を募集し、NITT学生部を立ち上げ、各契約チームと交渉し学生の受け入れを受託いただき、NITTメンバーと共に現場に派遣し入学後早期から実際の活動を体感させる。さらに、学生部専用の実習現場も確保し、主に高校2校の運動部に対し、NITT専属講師のもと、トレーニングやコンディショニング等、実際の指導も合わせて経験させ、より実践的にスポーツトレーナー活動を体感させた。また、スポーツトレーナー分野で活躍するトッププロを招き、計6回の教育プログラムを共同で開発、現場教育だけでなく理論的学習も合わせて実施する。それにより、学生が将来スポーツ現場で活動するために必須となる医療国家資格取得に対する意欲を向上させ、結果的に学業全体の意欲も合わせて向上させる試みを実施した。ここに実践報告として報告する。

## 2. 方法

対象は、入部希望のあった当校柔道整復学科1.2年生14名。2017年6月にNITT学生部を立ち上げ、同時に参加学生に対しアンケートを実施。内容は①資格取得に対する意気込みについて②普段の座学授業に対する意気込みについて③普段の実技授業に対する意気込みについて④普段の自宅学習時間につい

ての4項目を設問とし、5段階尺度(5:非常に強い4:強い3:普通2:あまり高くない1:高くない)を設定し記入させた。その後、2018年2月まで、トッププロ(NATA-ATC・フットケアトレーナー・NITT代表者等)によるセミナーを計6回開催、実際のスポーツ現場(アメリカンフットボールXリーグ・同じくJPFリーグ・バスケットボールBリーグ・大学キックボクシング部・高等学校ソフトテニス部等)への派遣同行を計10回、その他、学生の自主的な活動を計16回行い、スポーツ現場での活動を体感し、同時にセミナー等による理論的学習及び学生間でのアウトプットを行った。活動終了時点で再度同様のアンケートを実施しその結果を比較した。

## 3. 結果

14名(回収率100%)から回答を得た。

- ① 資格取得に対する意気込みについて、開始時点で5:非常に強いが11名(78.6%)、4:強いが3名(21.4%)の結果に対し、終了時点では、5:非常に強いが11名(78.6%)、4:強いが3名(21.4%)とまったく同じ結果となった。
- ② 座学授業に対する意気込みについて、開始時点で5:非常に強いが5名(35.7%) 4:強いが4名(28.6%) 3:普通が4名(28.6%) 2:あまり高くないが1(7.1%)の結果に対し、終了時点では、5:非常に強いが7名(50%、+14.3%) 4:強いが4名(28.6% 同数) 3:普通が3名(21.4%、-7.2%) 2:あまり高くないが0名(0%、-7.1%)以上の結果となった。
- ③ 実技授業に対する意気込みについて、開始時点で5:非常に高いが8名(57.1%) 4:高いが3名(21.4%) 3:普通が2名(14.3%)の結果に対し、終了時点では、5:10名(71.4%、+19.8%) 4:強いが4名(28.6%、+7.2%) 3:普通が0名(0%、-14.3%)以上の結果となった。
- ④ 普段の自宅学習時間については、開始時点で5:3時間以上は0名(0%) 4:2時間以上1名(7.1%) 3:1時間以上4名(28.6%) 2:30分以上が6名(64.3%) 1:まったくしていない1名(7.1%)の結果に対し、終了時点では、5:3時間以上0名(0%、±0%) 4:2時間以上1名(7.1%、±0%) 3:1時間以上6名(42.9%、+14.3%) 2:30分以上6名

資格取得に対する意気込み 図1

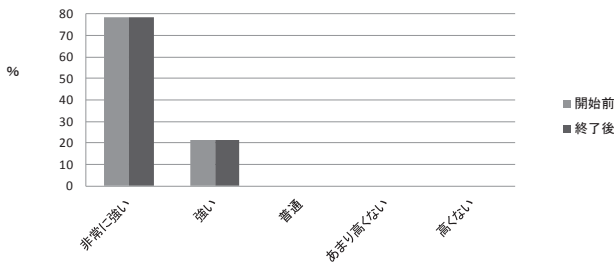


図1 あなたの資格取得に対する意気込み

座学授業に対する意気込み 図2

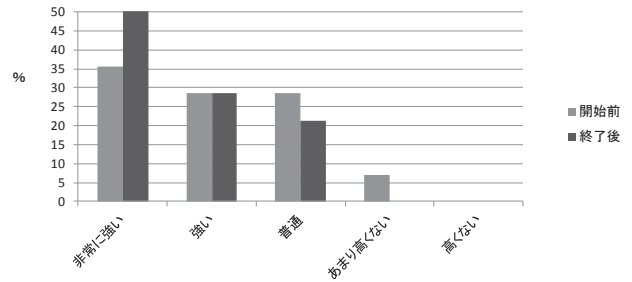


図2 座学授業に対する意気込み

実技授業に対する意気込み 図3

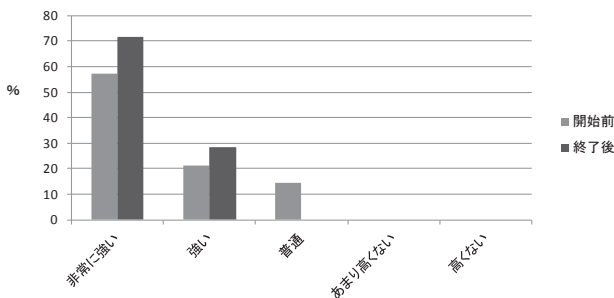


図3 実技授業に対する意気込み

自宅学習時間 図4

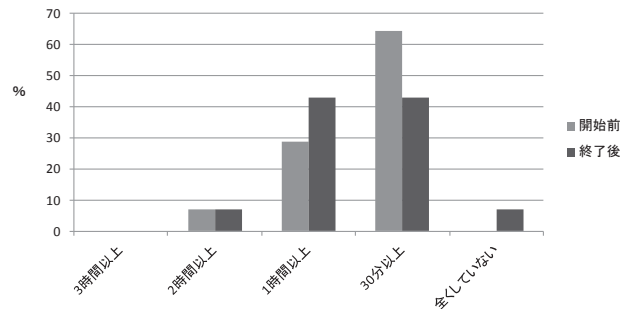


図4 自宅学習時間

(42.6%、-21.7%) 1：全くしていない1名：(7.1%、± 0%) 以上の結果となった。

#### 4. 考察

今回の試みの結果から、スポーツ現場でのトレーナー活動に興味を持つ学生に対し、早期から理論的学習を踏まえた実践的な現場教育を行うことにより、通常の座学授業や実技授業、自宅学習時間に対する意欲が向上することが示唆された。黒田ら (2015) は実践的な実習体験が学生の意識変化をもたらしその後の学習意欲に良い変化を与えたとしている。

医療系専門学校にとって、最も多くの時間は資格取得のためのカリキュラムの実施と試験対策の講座に使われる。それは資格を取得するために必然であると言える。しかし、現在多くの学校で資格取得のための学習重視による予備校化が進んでおり、学生たちが入学当初に持っているその職業に対する憧れからくる高い意欲に答えきれていないばかりか、逆に低下をさせているように感じる。鶴見ら (1993) は現場教育時間の減少は学生の意欲低下に影響するとしている。

今回のアンケート結果では、資格取得に対する意気込みについては、開始前と開始後で結果の変化が起こらなかった。これは、入学後いかに学生たちの意欲を向上させるかということよりも、学生たちにとって、最も意欲が高いのは入学時である場合が多く、いかに低下させないかが重要であると考えられる。

また、座学授業に対する意気込みに関しては、非常に強い、強いが14.6%上昇しており、実技授業に対する意気込みに至っては、非常に強い、強いが27%上昇している。自宅学習時間に関しても、1時間以下が21.7%減少し1時間以上が実質36%上昇している。

ただし、実技授業と比較し、座学授業への意気込み及び自宅学習時間に関しての変化は小さい。これは、資格取得はしたいがもともとあまり座学授業(理論的学習)に関心を持っておらず、実技授業(実践的学習)に対する意気込みが高い学生達が多く、実習をすることでよりやる気が増した結果とも考えられる。今後は、座学授業(理論的学習)への意欲をさらに高めるための取り組みを検討する必要がある。以上のことから、実践的な現場教育は、自身が

目指しているまたは憧れている職業の現場を実際に体感する事により、学ぶ意味や将来のイメージをより明確化し、それにより、通常の授業や学習時間に対する意欲の向上、特に実技授業に対して大きな影響と効果を示したと考えられる。

専門学校は職業教育訓練校として、当初のその職業に就くことに対する意欲を低下させないためにも、また更に高めるためにも、学生1人1人のニーズに答えられる実践的な現場教育とそこから理論的な学習意欲向上へと繋げる取り組みが不可欠であると考えられる。

今回の試みは、対象人数も少なく、期間、調査方法等が不十分な部分も多いため、今後、調査の規模を拡大し、他の類似機関における調査と比較するなど更なる改善を行い継続的に実施していく必要があると考えられる。

## 5. 謝辞

今回の試みに際し、NITT 各提携組織、並びに三田竜治先生、米村仁洋先生・雨宮淳先生にご協力を

いただいた。記して感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 黒田貴綱・笹田勝寛・河野英一：大学生の野外実習における環境意識の変化とその教育効果に関する研究。環境情報科学学術研究論文集29（2015）
- 2) 鶴見良久・高橋高治・水上昌文：学生の臨床実習に対する意識調査。埼玉理学療法1：61-65（1993）
- 3) 佐藤亮・南留美子・中野真実：臨床見学実習の新たな試み。第50回日本理学療法学術大会（東京）ポスター教育（卒前教育臨床実習5）
- 4) 佐藤亮・南留美子・神吉真実：当院における臨床評価実習の実践報告。第51回日本理学療法学術大会（札幌）ポスター教育 P05

受付日：2018年3月8日